

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム・参加報告

2024 年 10 月 14 日 ダイバーシティ推進室

[日時] 2024 年 10 月 12 日 (土) 10:00~16:30

[場所] 中央大学茗荷谷キャンパス&オンライン開催

[概要]

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「女子中高生の進路選択 ～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」が上記の日程で行われ、濱口幸一(東京大学)、宮島 顕祐(東京理科大学)が現地参加、ポスター発表を行った。

1. 講演・パネル討論について

午前の部では、永合由美子氏(NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト 代表理事)が「女子中高生の夏の学校(夏学)」の 20 年間の活動に関する講演をされた。その取り組みとして、学生が企画すること、多様なロールモデルを示すこと、アウトプットを示すことを挙げられていた。また、参加者の満足度が高いことや自己肯定感の向上につながっている可能性が報告された。

午前の部の最後には学協会連絡会の活動報告(提言・要望書 WG、ホームページ検討 WG、加盟学協会の活動調査の速報など)が行われた。

午後の部の前半では 3 つの講演が行われた。最初に、寺町晋哉氏(宮崎公立大学 准教授)が「女子中高生の進路選択を取りまくジェンダー」と題し、主に小・中学校・高校における、教員や男女学生の理数系科目に対する意識に関する講演をされた。次に、細越裕子氏(大阪公立大学 教授)が、「女子中高生のための関西科学塾」の 19 年間の活動内容や今年度の取り組みについて講演をされた。次に、これまで夏学に参加者・運営側として関わってきた朝井都氏(大阪大学特任研究員/リコー)から、自身の体験に基づいた夏学の意義について講演をされた。

午後の部の後半では、講演者等によるパネル討論が行われた。理系に進む女性を増やすために中学校・高校の教員の意識を変える必要性が挙げられ、中学校・高校の教員や教育委員会へのアプローチにどのような方法があるのか、参加者も交えて活発な意見交換がされた。

2. ポスター発表について

昼休みにポスターセッションが行われ、物理学会ダイバーシティ推進委員会の活動として、米沢富美子記念賞や、夏学や関西科学塾への支援などについて報告した。また、他学会や大学の発表者と意見交換を行った。